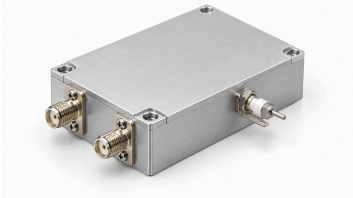
2–6 GHz 2入力LNA・合成モジュール



LCLNAPC-2000-6000-2-1は2000–6000 MHzをカバーし、2つの増幅分岐の後段に合成器を備えます。資料の代表値は利得30 dB、雑音指数2 dB、Psat 7 dBmです。同時入力時の動作は定義されず、入力間アイソレーション、振幅・位相平衡、線形出力は未規定です。

DC接続は独立した貫通コンデンサと接地片です。代表電源5 V、電流170 mA。電源6 Vと入力12 dBmは絶対最大値です。外形50 × 40 × 13 mm、SMA-Kメス、中心間距離45.6 × 35.6 mmに4個のΦ2.7 mm取り付け穴を備えます。

電気仕様

項目	値	単位
動作周波数	2000–6000	MHz
利得	30 (代表値)	dB
雑音指数	2 (代表値)	dB
飽和出力電力（Psat） [1]	7 (代表値)	dBm
入力S11（資料の符号付き値） [2]	−10 (代表値)	dB
電源電圧	5 (代表値)	VDC
動作時電流	170 (代表値)	mA

[1] 飽和出力Psatであり、P1dBや保証線形出力ではありません。

[2] 資料の負のS11表記を保持し、正のリターンロスに変換しません。

絶対最大定格

項目	値	単位
電源電圧の絶対最大定格	≤6 (絶対最大定格。この限界での連続動作や性能は確立されていません。 最大: 6 VDC.)	VDC
入力電力の絶対最大定格	≤12 (絶対最大定格。この限界での連続動作や性能は確立されていません。 最大: 12 dBm.)	dBm
動作温度	−40–+70	°C
保存温度	−40–+85	°C

インターフェースと端子

インターフェース	仕様
RF入力数	2
合成RF出力数	1

インターフェースと端子

インターフェース	仕様
増幅・合成経路	2つの増幅入力を1つの出力に合成 (資料は各経路または同時入力時の試験条件、入力間アイソレーション、振幅・位相平衡を規定していません。合成による性能向上の保証は導きません。)
RF入力コネクタ	SMA-Kメス
RF出力コネクタ	SMA-Kメス
DC電源端子	貫通コンデンサ
接地端子	接地金属片

機械仕様

項目	値	単位
本体寸法	50 × 40 × 13	mm
取り付け穴中心間距離	45.6 × 35.6	mm
取り付け穴	4 × Φ2.7 (4個の貫通穴。)	mm

文書に関する注意

仕様は製品の更新に伴い改訂される場合があります。設計を確定する前に、現行の文書改訂版と製品固有の要件を LCRF に確認してください。供給構成は承認済みの見積書および注文書類で定義されます。